

令和5年度 コンピテンシー(学修到達目標)に
関する自己評価アンケート調査結果報告書(抜粋)

令和6年3月

浜松医科大学 IR 室 (教学部門)

調査概要

1. 調査の目的

令和5年度（2023年度）医学科6年生を対象に、コンピテンシー（学修到達目標）における自己評価アンケートを得て、教育プログラムにおける問題点や改善点を把握する。

2. アンケート実施方法等の概要

- 調査対象 令和5年度（2023年度）医学科6年生 119名
- 調査方法 留置調査法（自記式）
医師国家試験受験手続の説明会時に質問紙を配布し、後日、他の書類とともに提出を依頼した。
- 調査期間 令和5（2023）年10月30日
- 回収枚数 119枚（回収率 100%）
- 有効回答数 119枚（有効回答率 100%）

3. その他

本調査は、医学科カリキュラム評価委員会が原案を企画し、IR室が調査を実施した。また、本調査は調査開始（2017年度）から継続的に実施しているため、過年度のデータも併せて傾向を見ることとした。

ディプロマ・ポリシーごとの集計結果

1. 専門知識と技能

到達度において、「1.基本的な医療面接ができる」は、2017年度の調査開始以来、過去最高を記録した(P.3, 図 1-1)。一方、「7.基本的な臨床手技を身につけている」は例年、到達度、満足度ともに低い傾向がみられる(P.3, 図 1-1、P.4, 図 1-2)。自由記述欄にも手技の不足感に関する記述が2件含まれている (P17, 6.自由記述)。

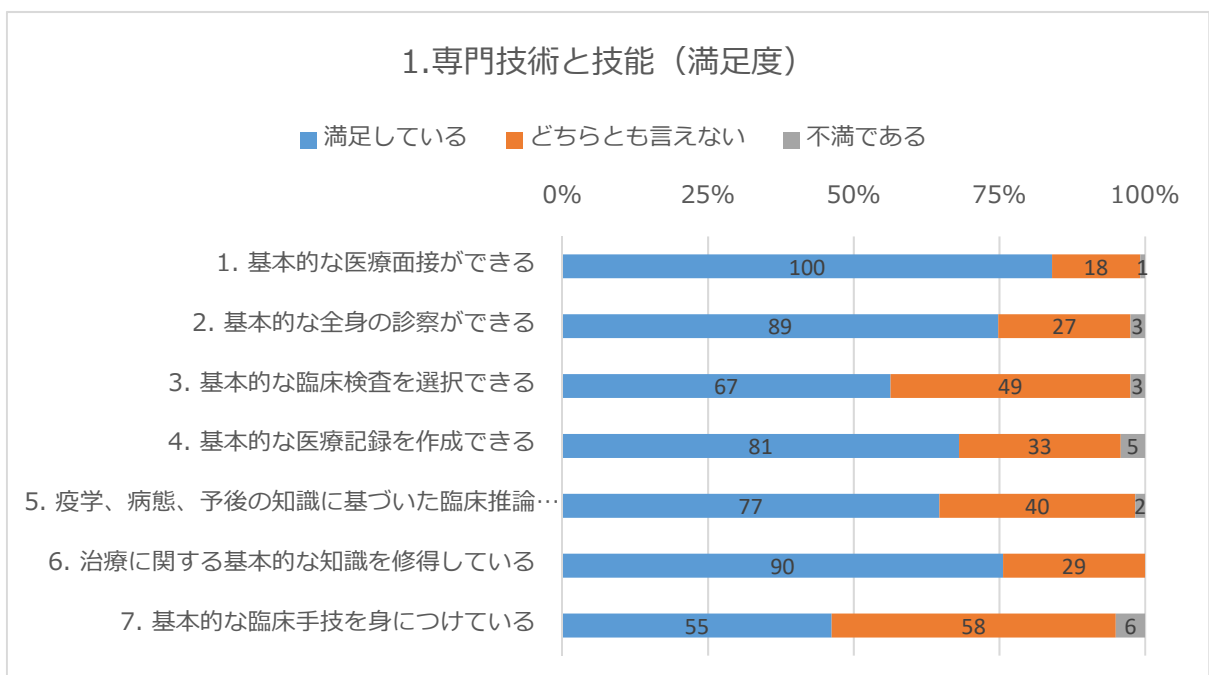
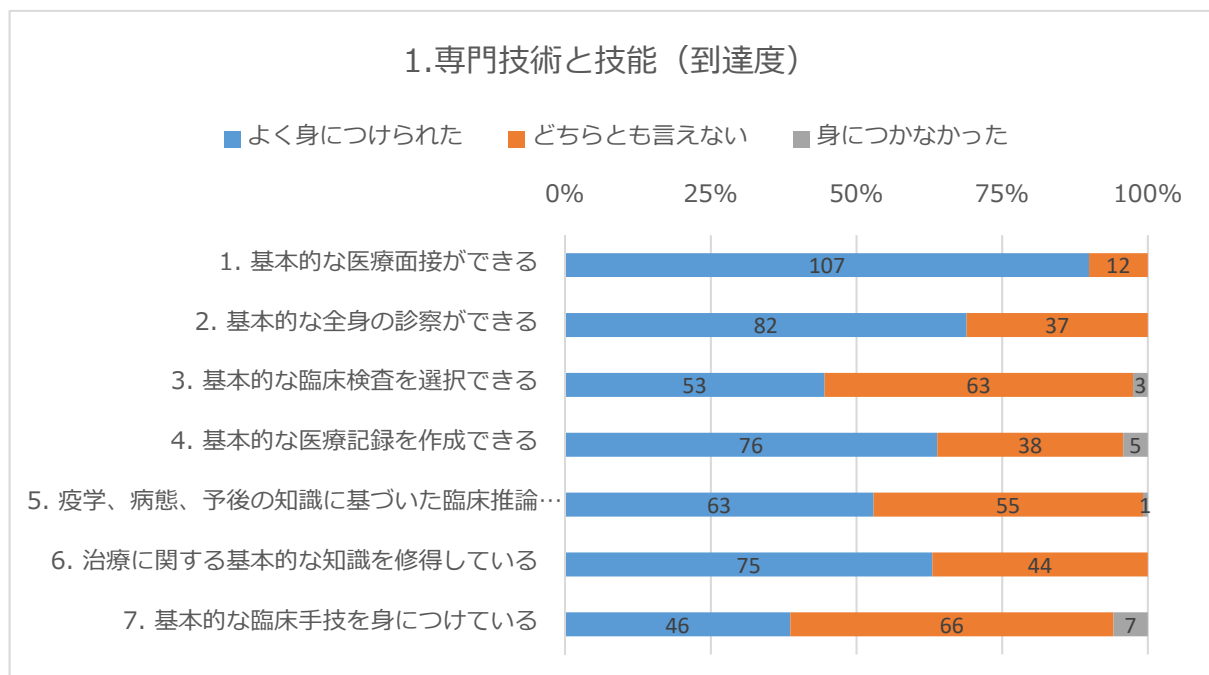
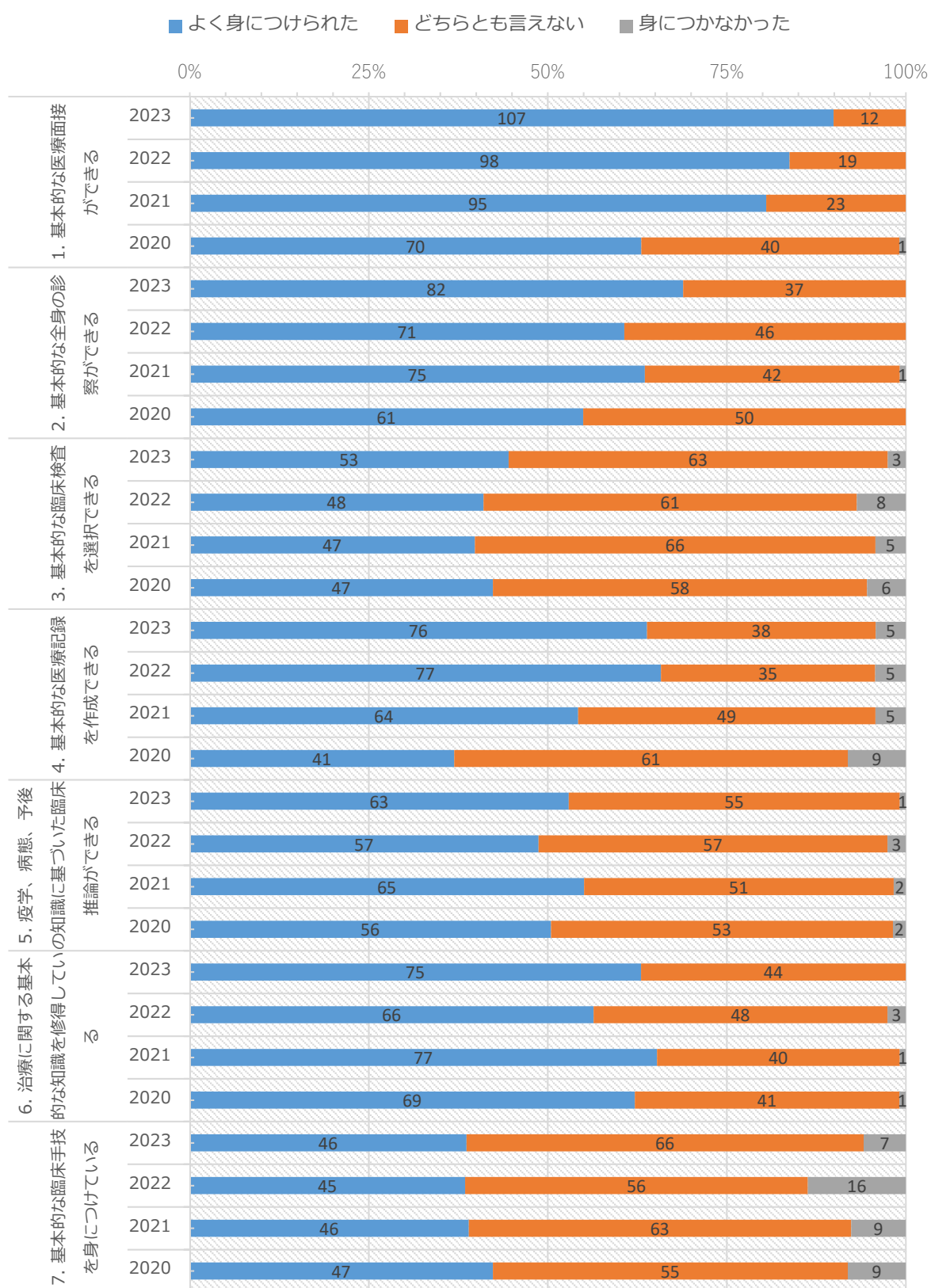
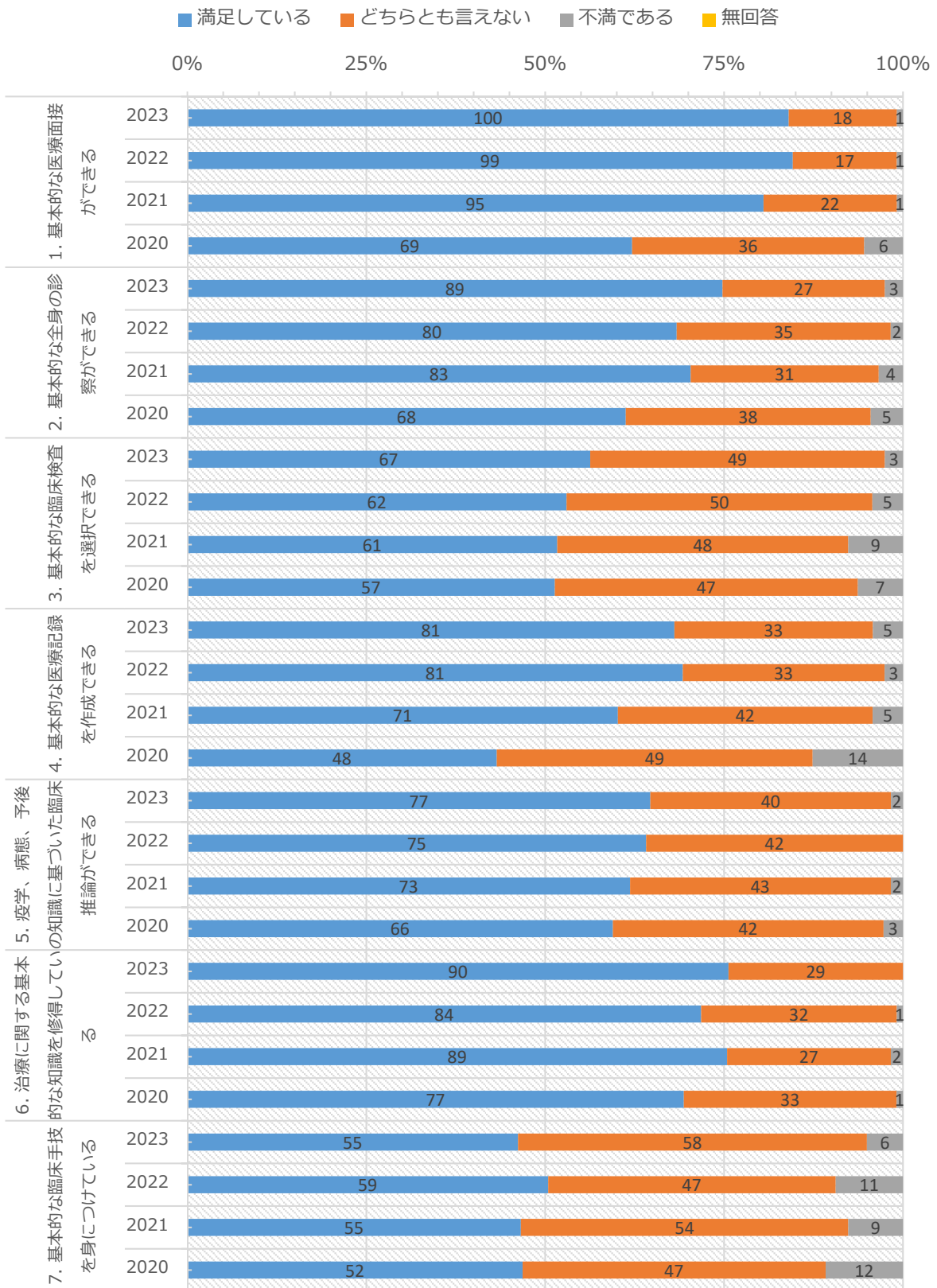


図1-1 専門知識と技能（到達度）の4か年比較



回答者数 2023年度：119/ 2022年度：117/ 2021年度：118 / 2020年度：111

図1-2 専門知識と技能（満足度）の4か年比較



回答者数 2023年度：119/ 2022年度：117/ 2021年度：118 / 2020年度：111

2. 自律的学修能力と応用能力

いずれのコンピテンシーにおいても、到達度、満足度ともに概ね高い数値が示されたと考えられる。過去4か年を含めて、到達度、満足度で50%を下回った年度は見られない。到達度、満足度ともに「2.問題を自ら抽出できる」は過去4か年で最高の割合となった。(P.6, 図2-1、P.7, 図2-2)

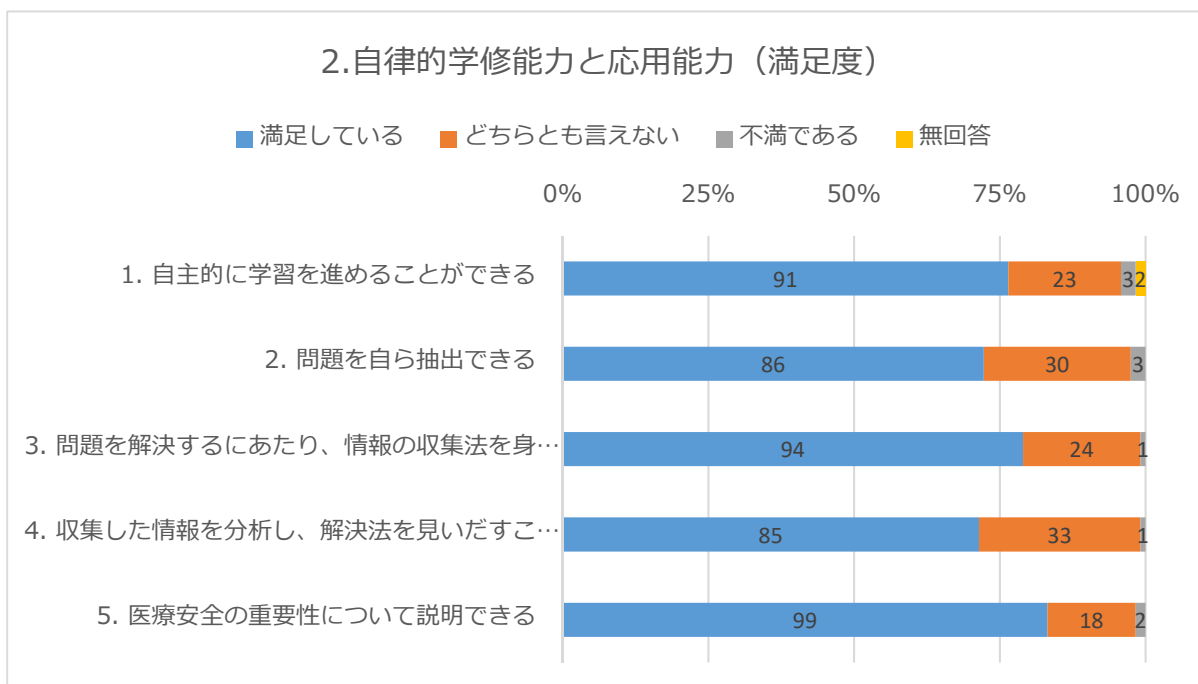
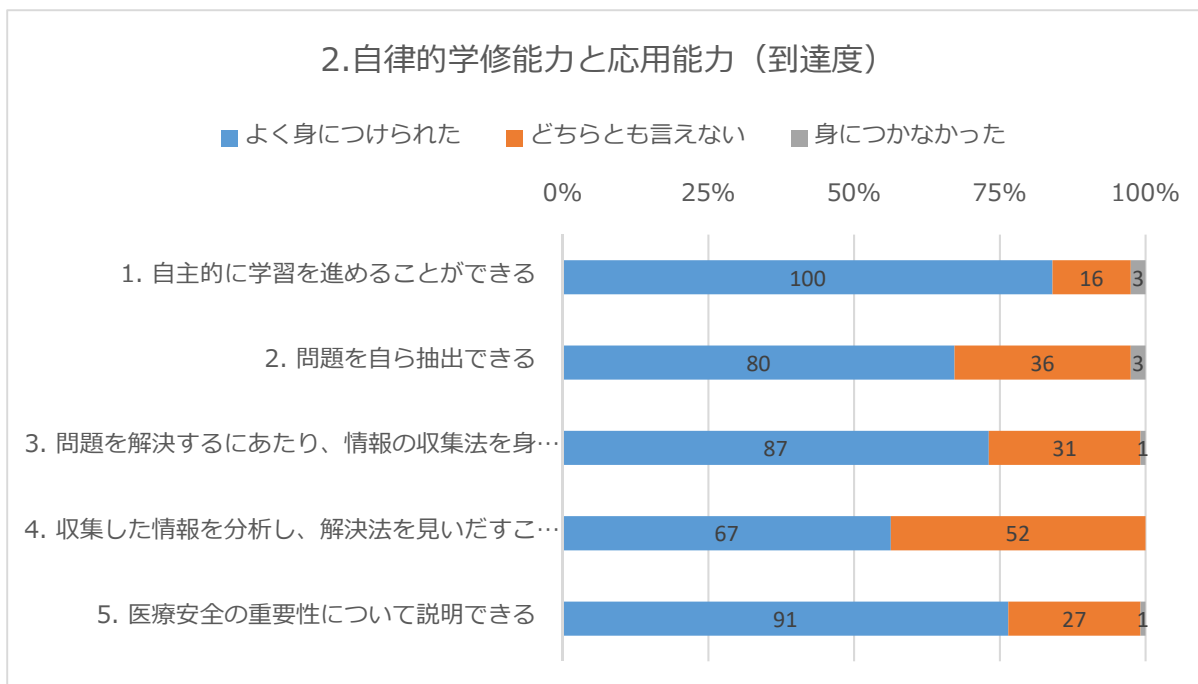
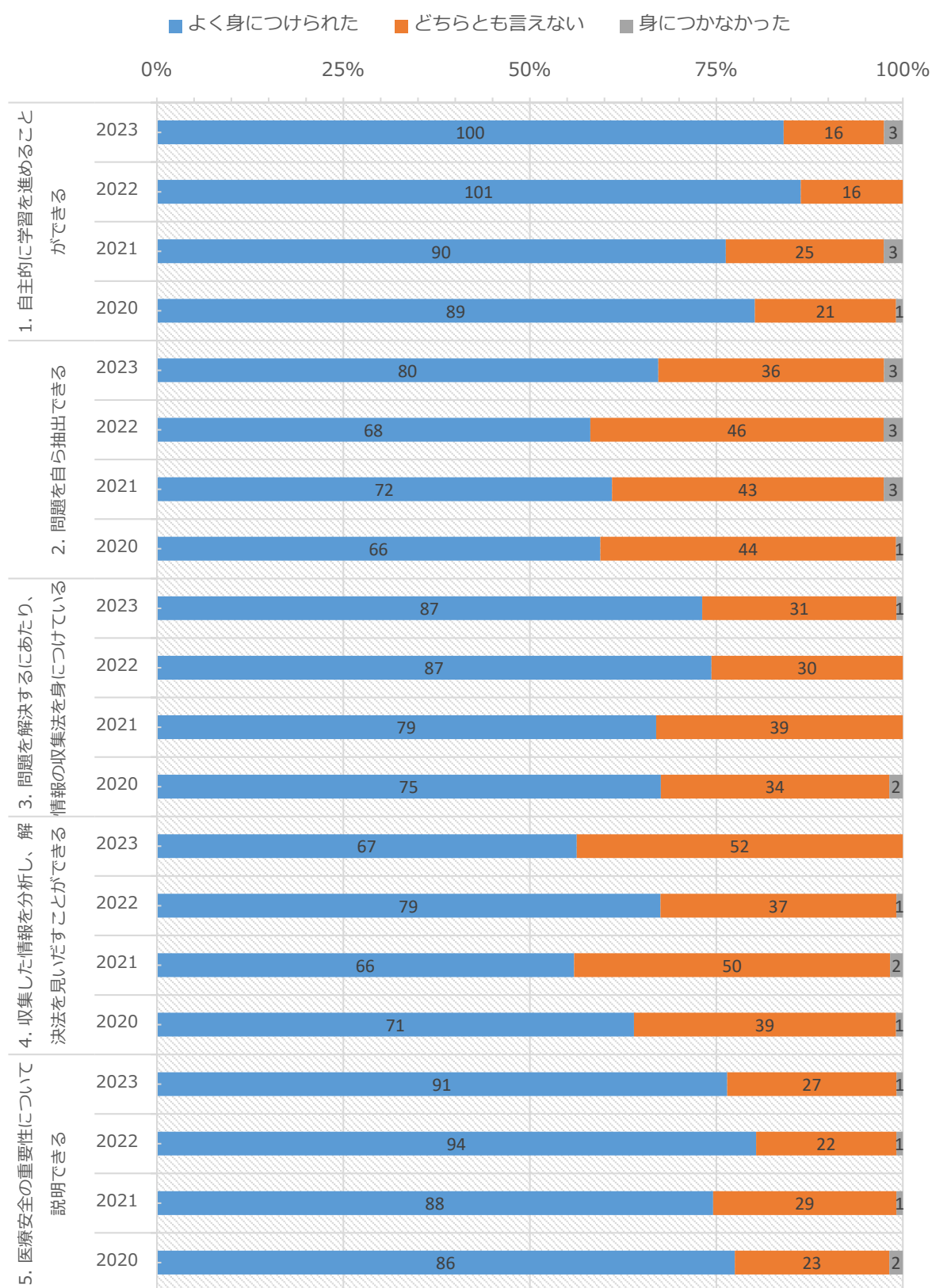
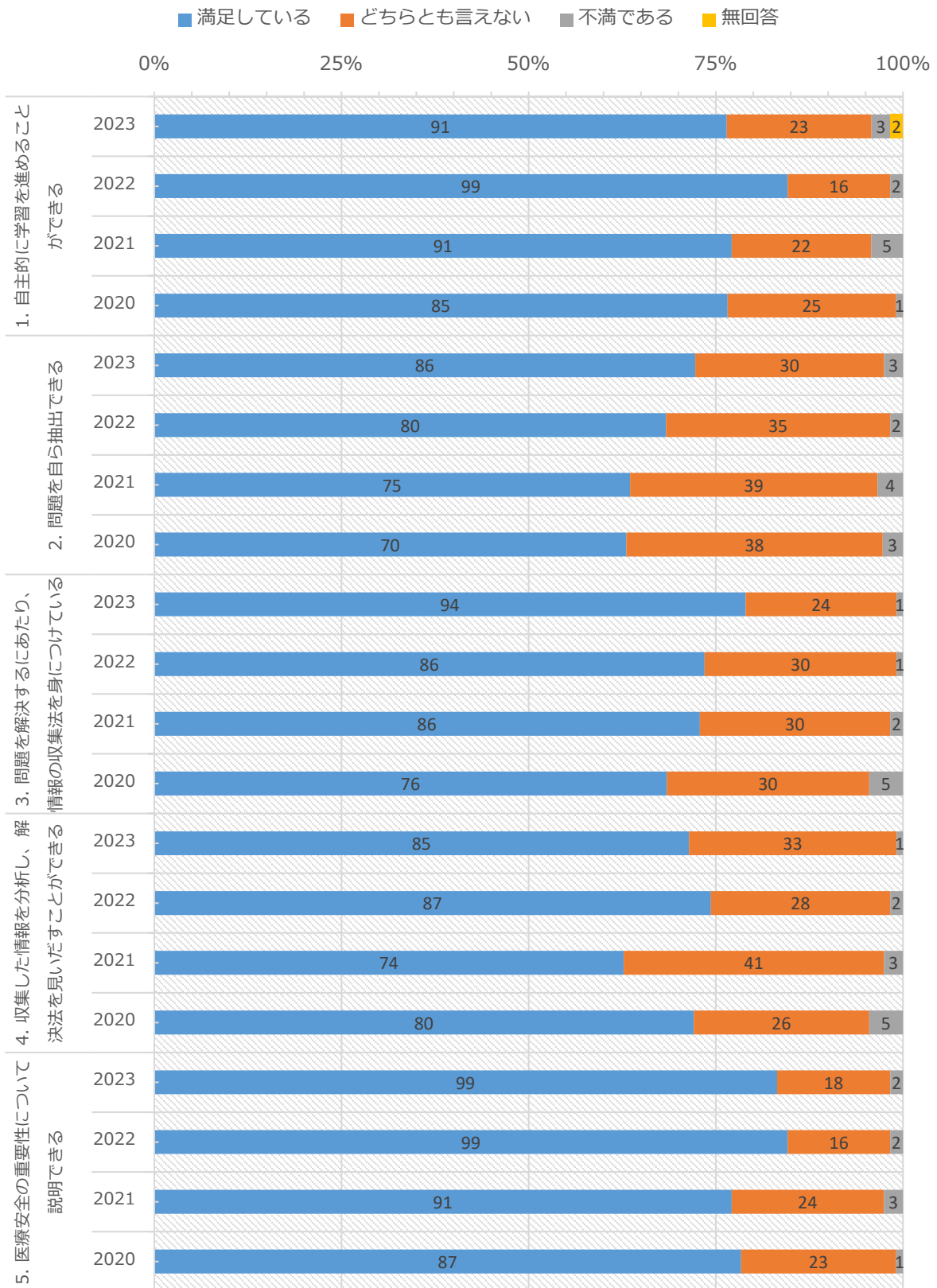


図2-1 自律的学修能力と応用能力（到達度）の4か年比較



回答者数 2023年度：119/ 2022年度：117/ 2021年度：118 / 2020年度：111

図2-2 自律的学修能力と応用能力（満足度）の4か年比較



回答者数 2023年度：119/ 2022年度：117/ 2021年度：118 / 2020年度：111

3. 豊かな人間性と高い倫理観

到達度、満足度ともに「8.患者のプライバシーに配慮できる」、「9.患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる」が2017年度の調査開始以来過去最高を記録した（P9, 図3-1、P10, 図3-2）。

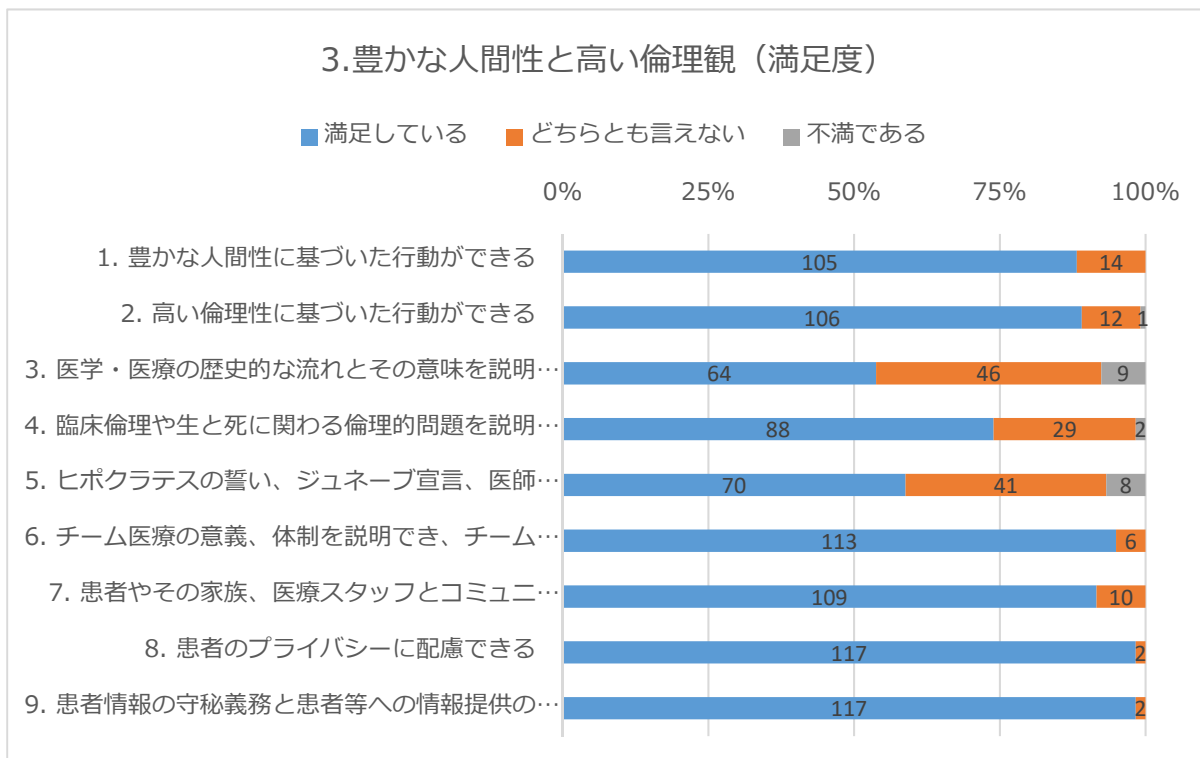
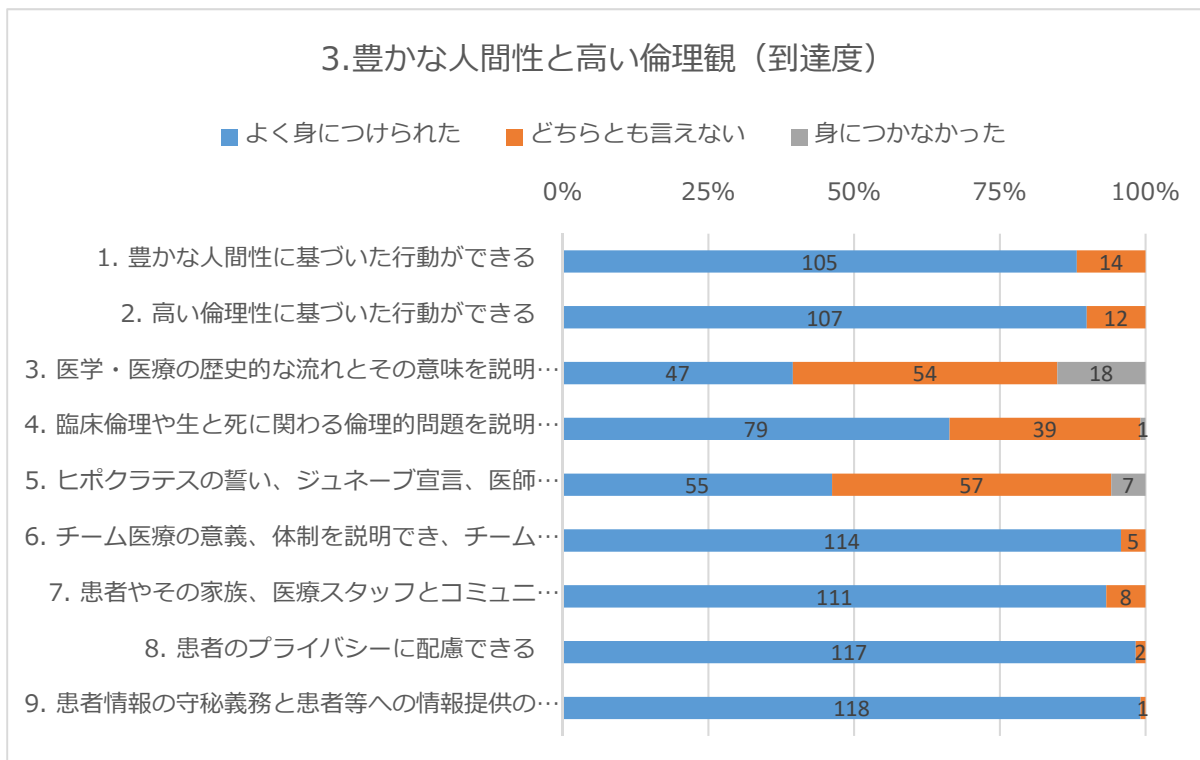
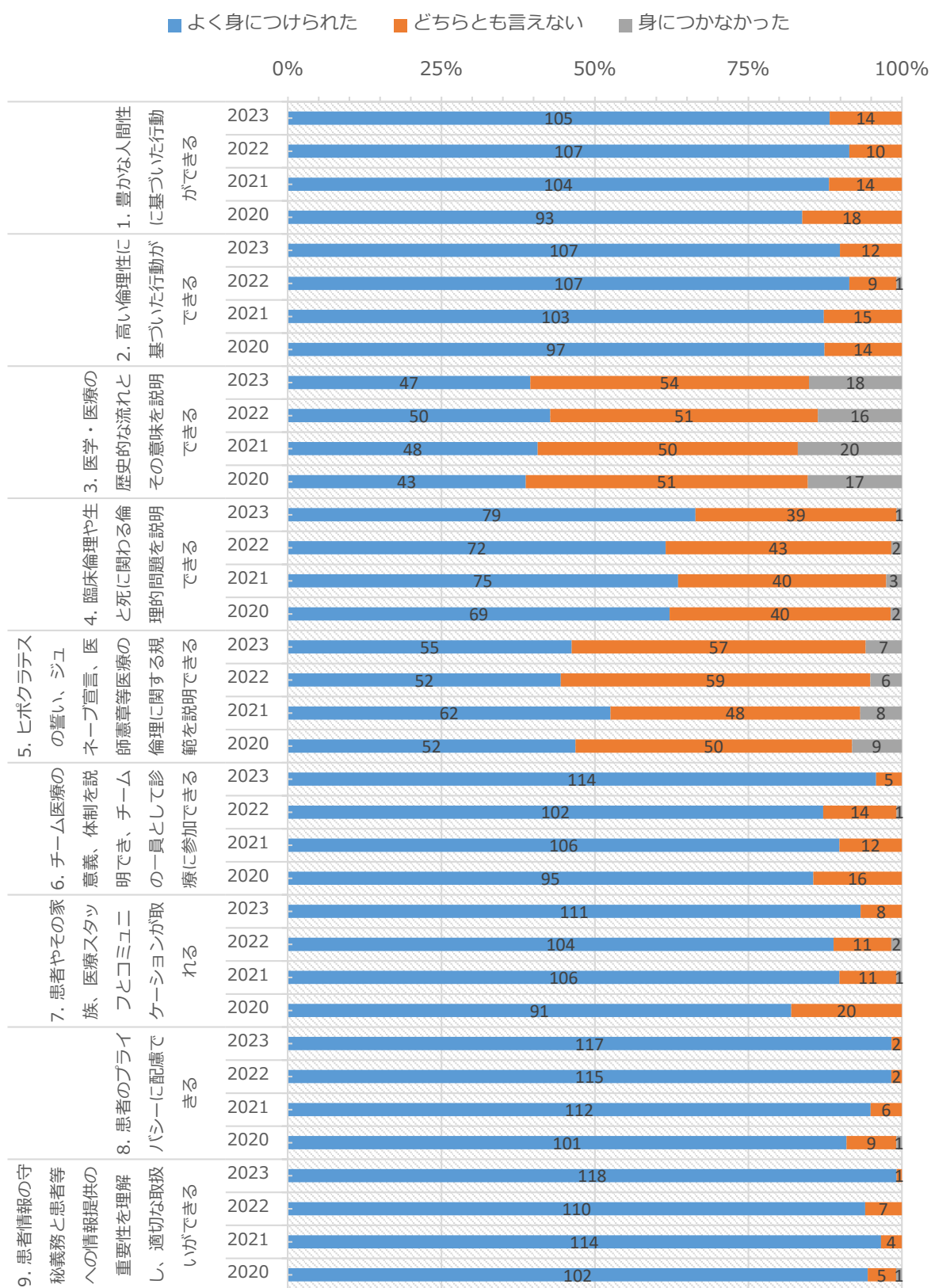
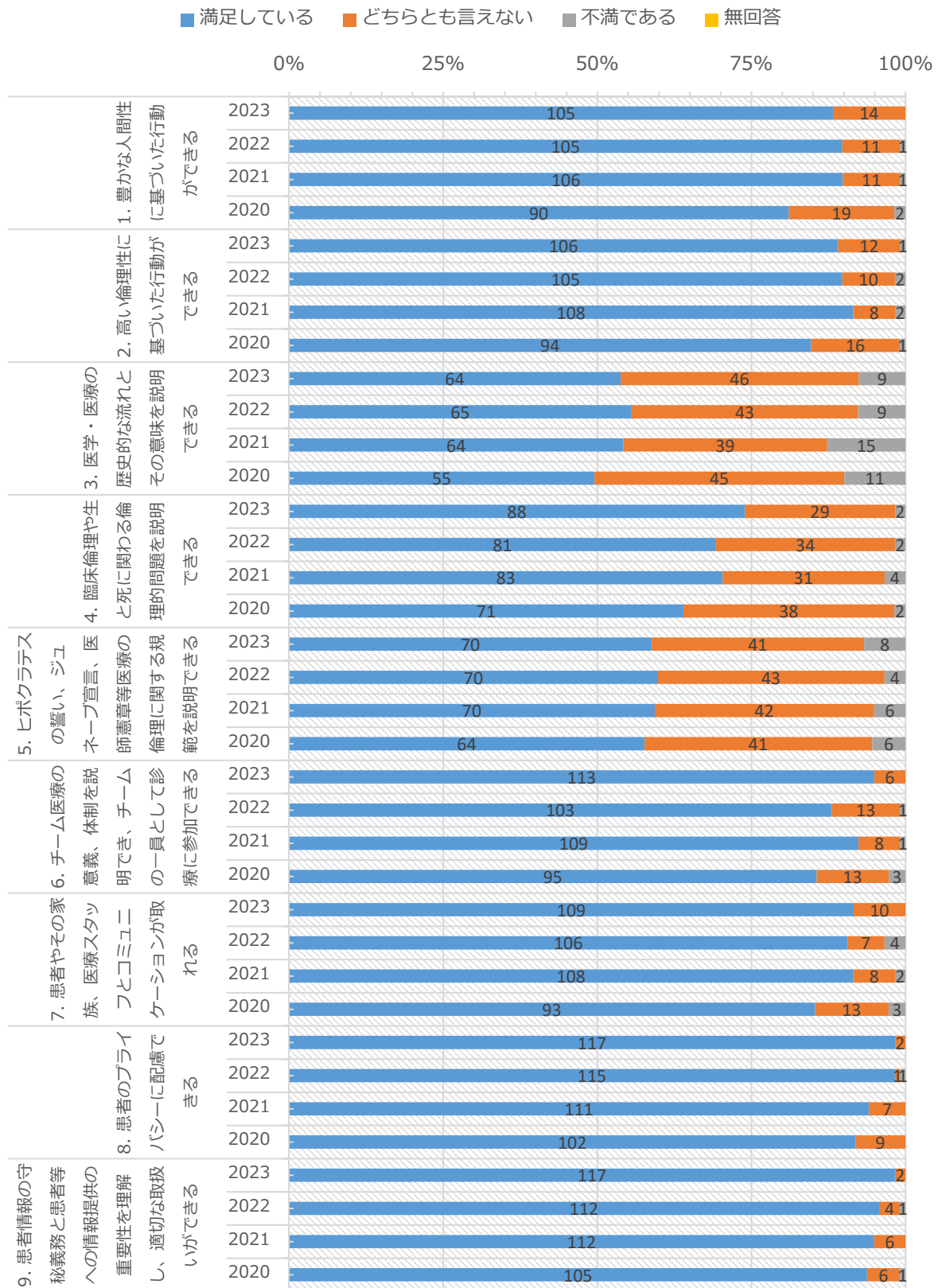


図3-1 豊かな人間性と高い倫理観（到達度）の4か年比較



回答者数 2023年度：119/ 2022年度：117/ 2021年度：118 / 2020年度：111

図3-2 豊かな人間性と高い倫理観（満足度）の4か年比較



回答者数 2023年度：119/ 2022年度：117/ 2021年度：118 / 2020年度：111

4. 科学的探究心

到達度、満足度ともに「1. 科学論文を理解し、評価できる」は、近年上昇傾向にある。また、到達度、満足度ともに「2. 研究課題を自ら見いだすことができる」は、過去4年間で最高となったが、他の項目より若干低い傾向にあることが続いている。（P12, 図4-1、P13, 図4-2）

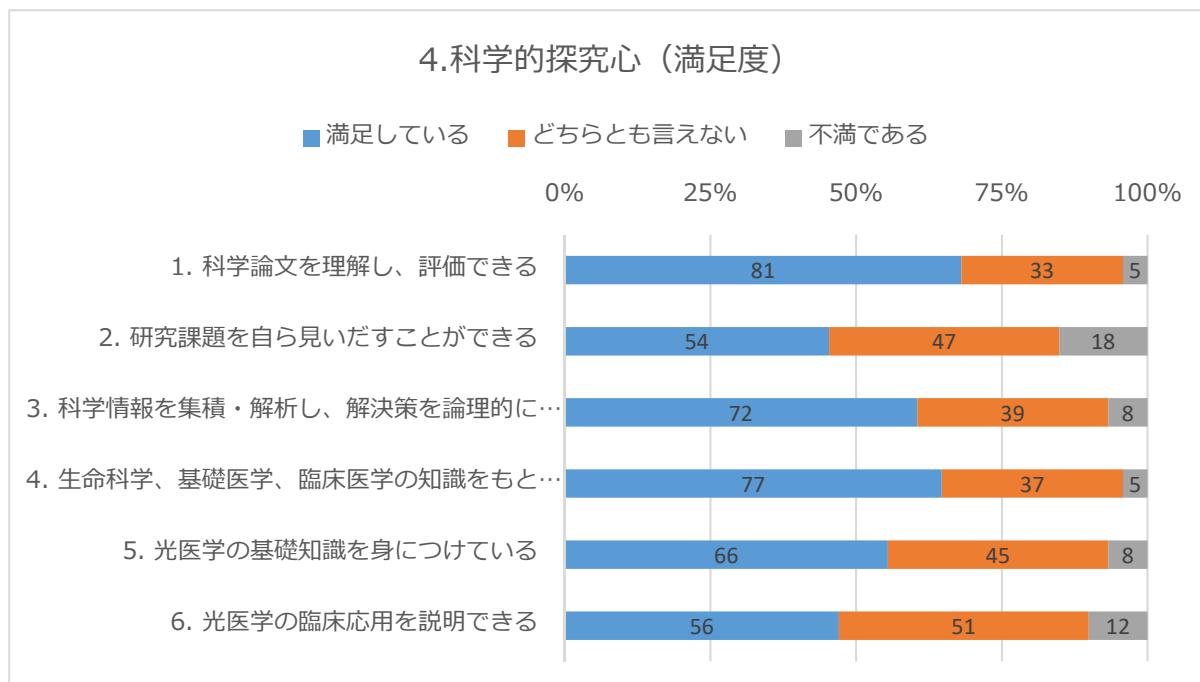
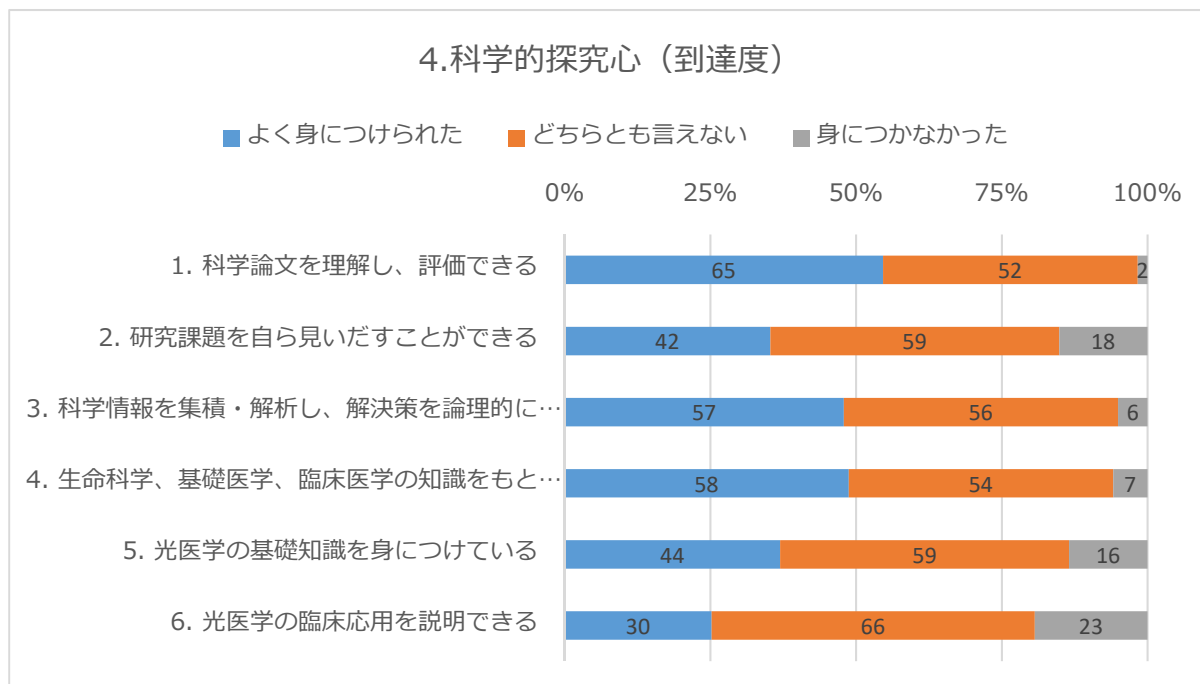
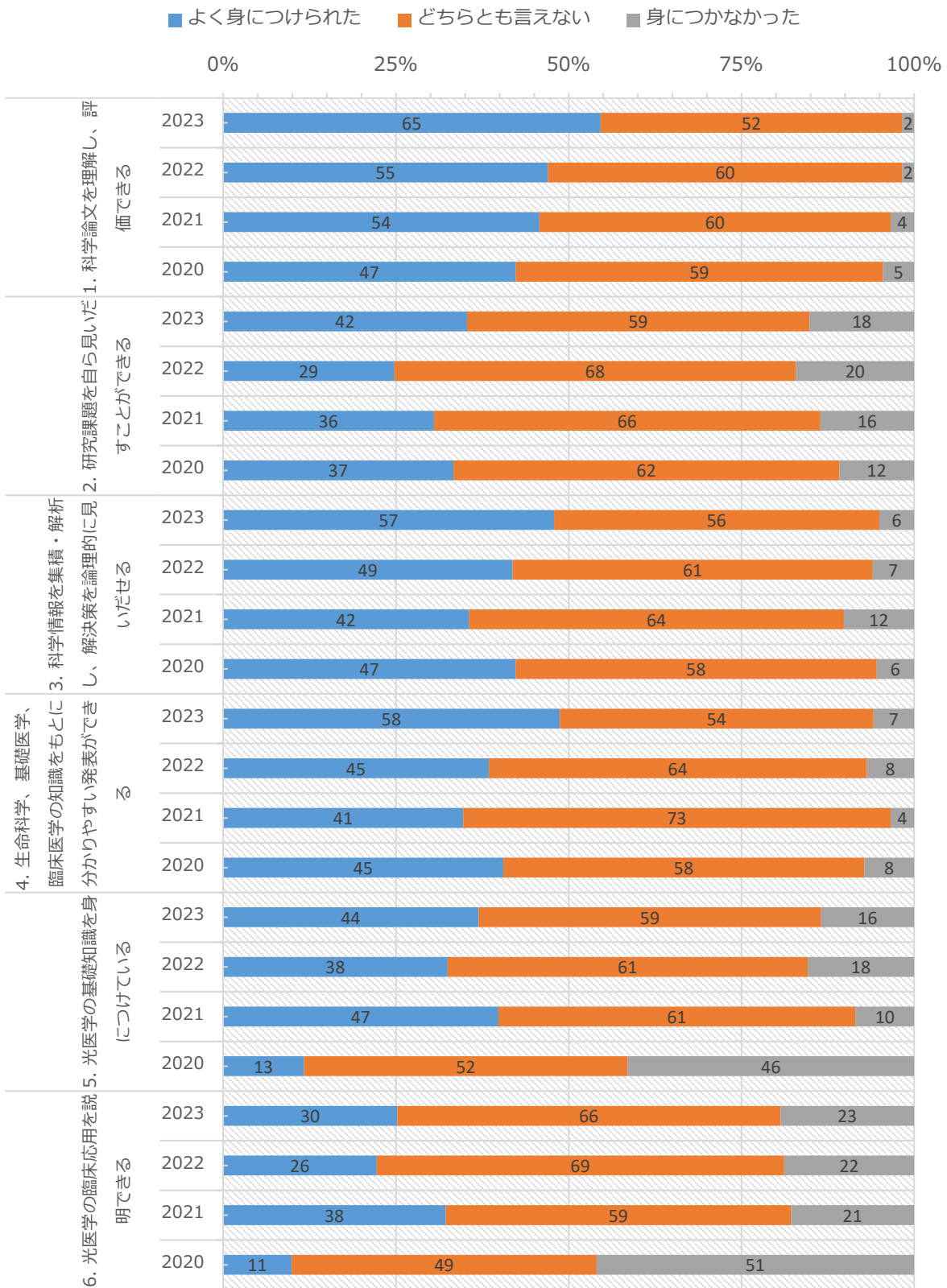
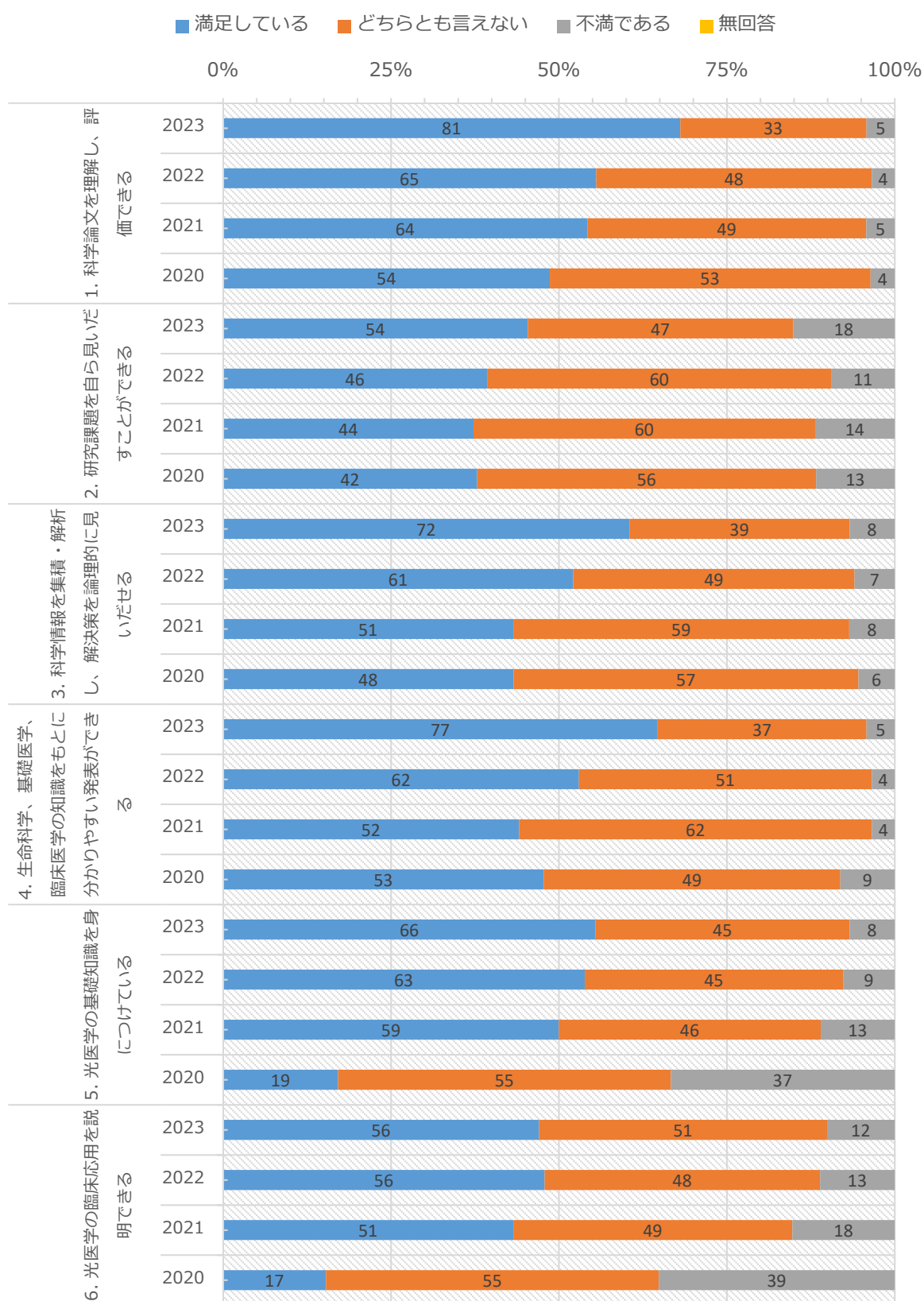


図4-1 科学的探究心（到達度）の4か年比較



回答者数 2023年度：119/ 2022年度：117/ 2021年度：118 / 2020年度：111

図4-2 科学的探究心（満足度）の4か年比較



回答者数 2023年度：119/ 2022年度：117/ 2021年度：118 / 2020年度：111

5. 社会貢献力

「1. 地域医療の役割、必要性を説明できる」及び「2. 地域医療で活躍できる資質を身につけている」が、到達度、満足度ともに2017年度の調査開始以来、過去最高を記録した。これは、2019年度に開始した総合診療・家庭医療実習の効果が継続しているものと思われる。対して「4. 国際社会に貢献するための語学力を身につけている」については、到達度、満足度ともに昨年度より上昇したものの低迷している。(P15, 図5-1、P16, 図5-2) また、自由記述欄にも英語学習の不足感に関する記述が6件含まれていた (P17, 6.自由記述)。

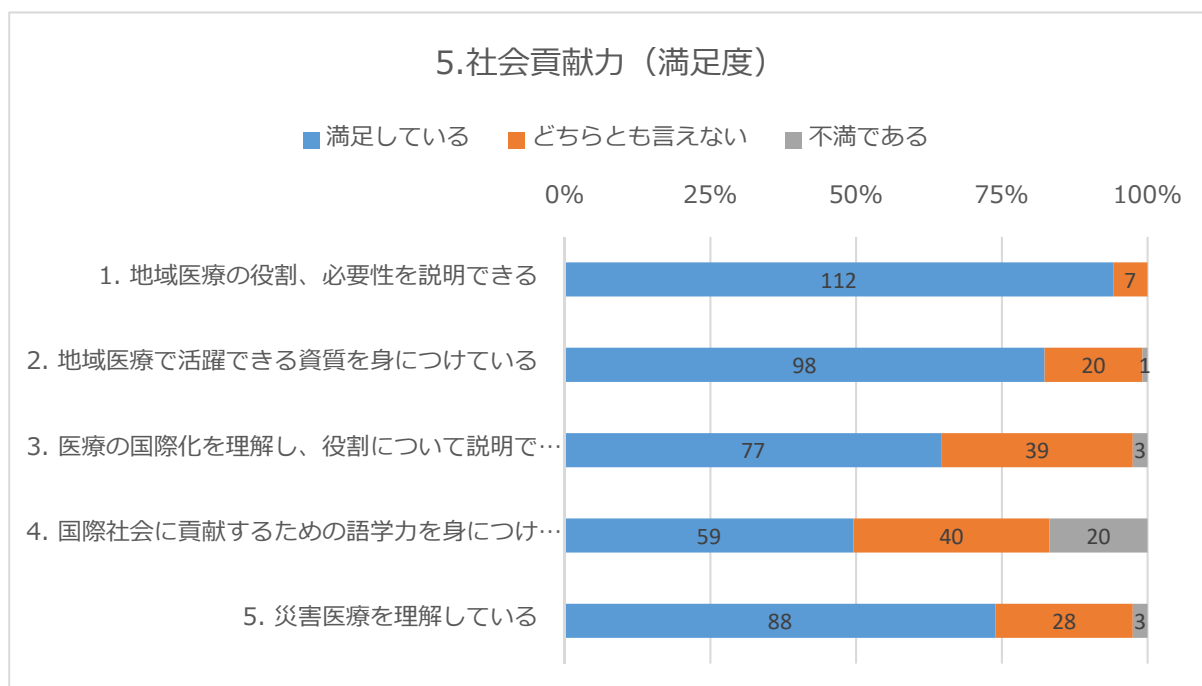
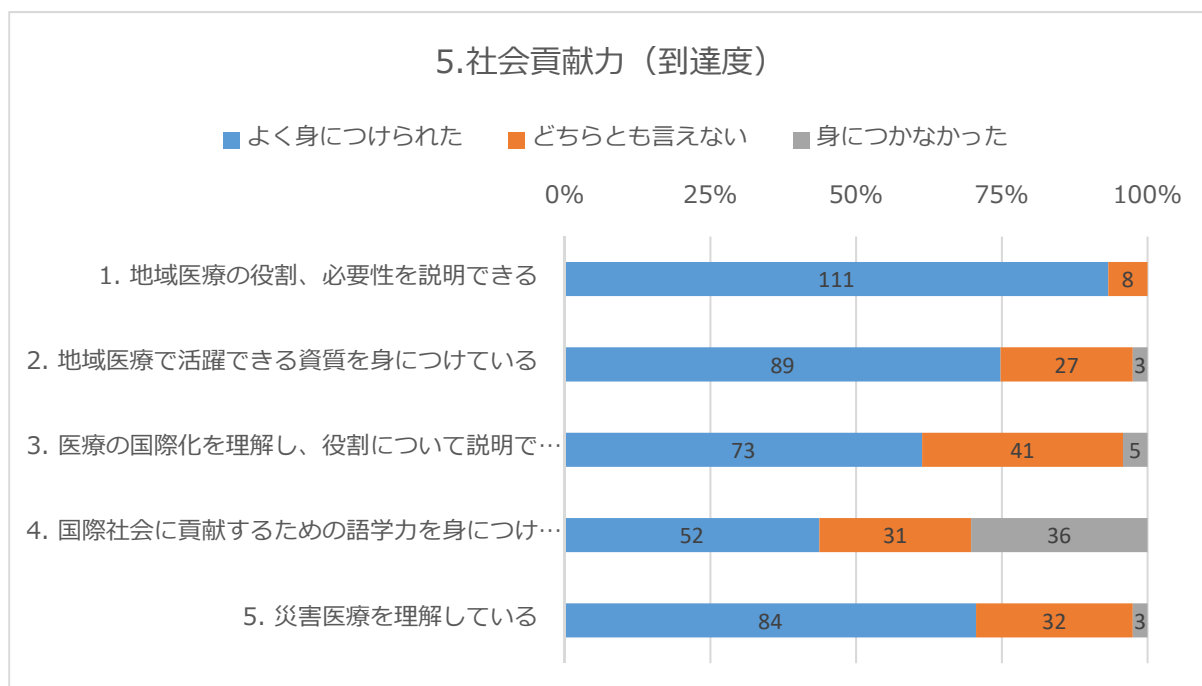
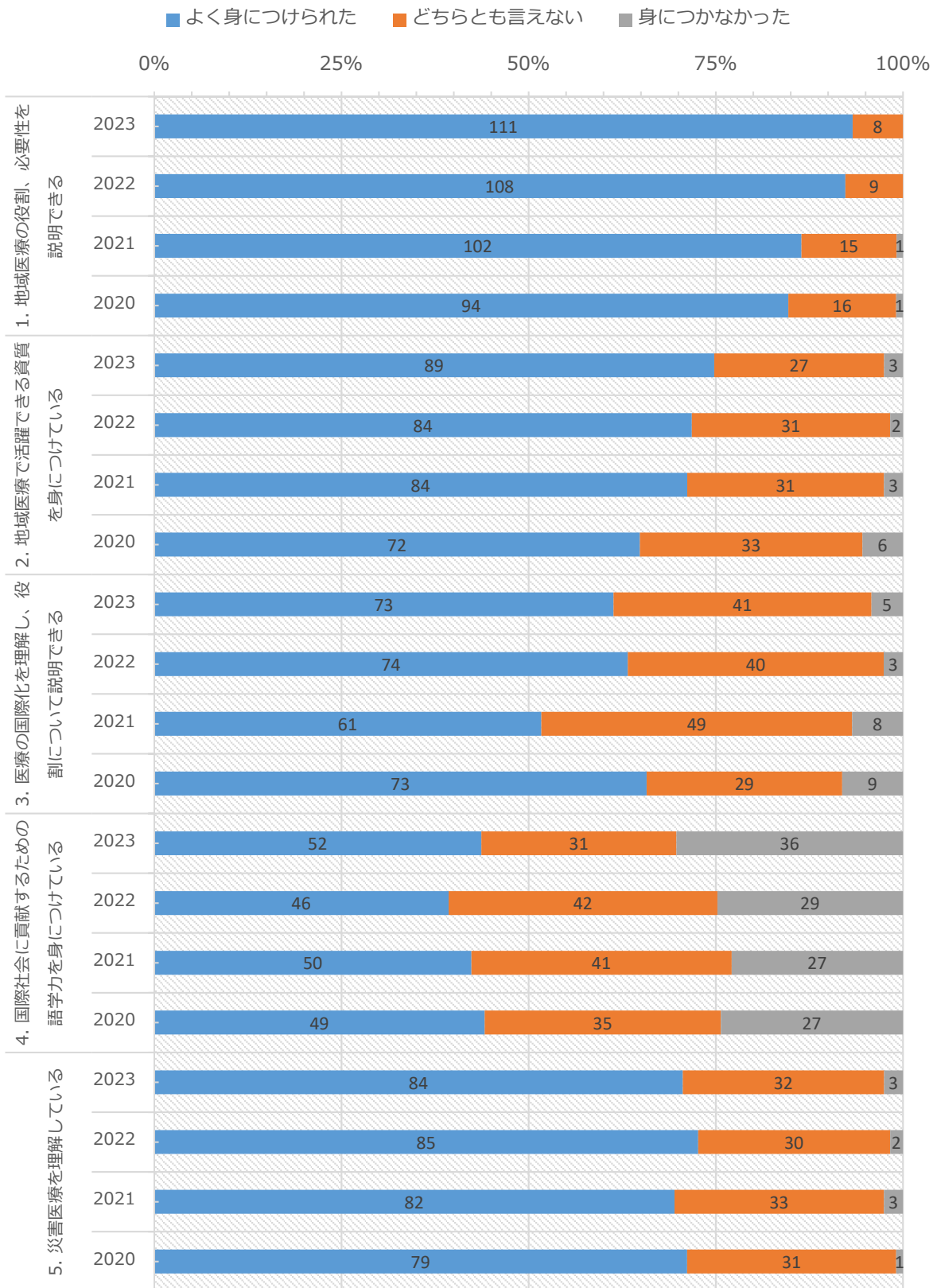
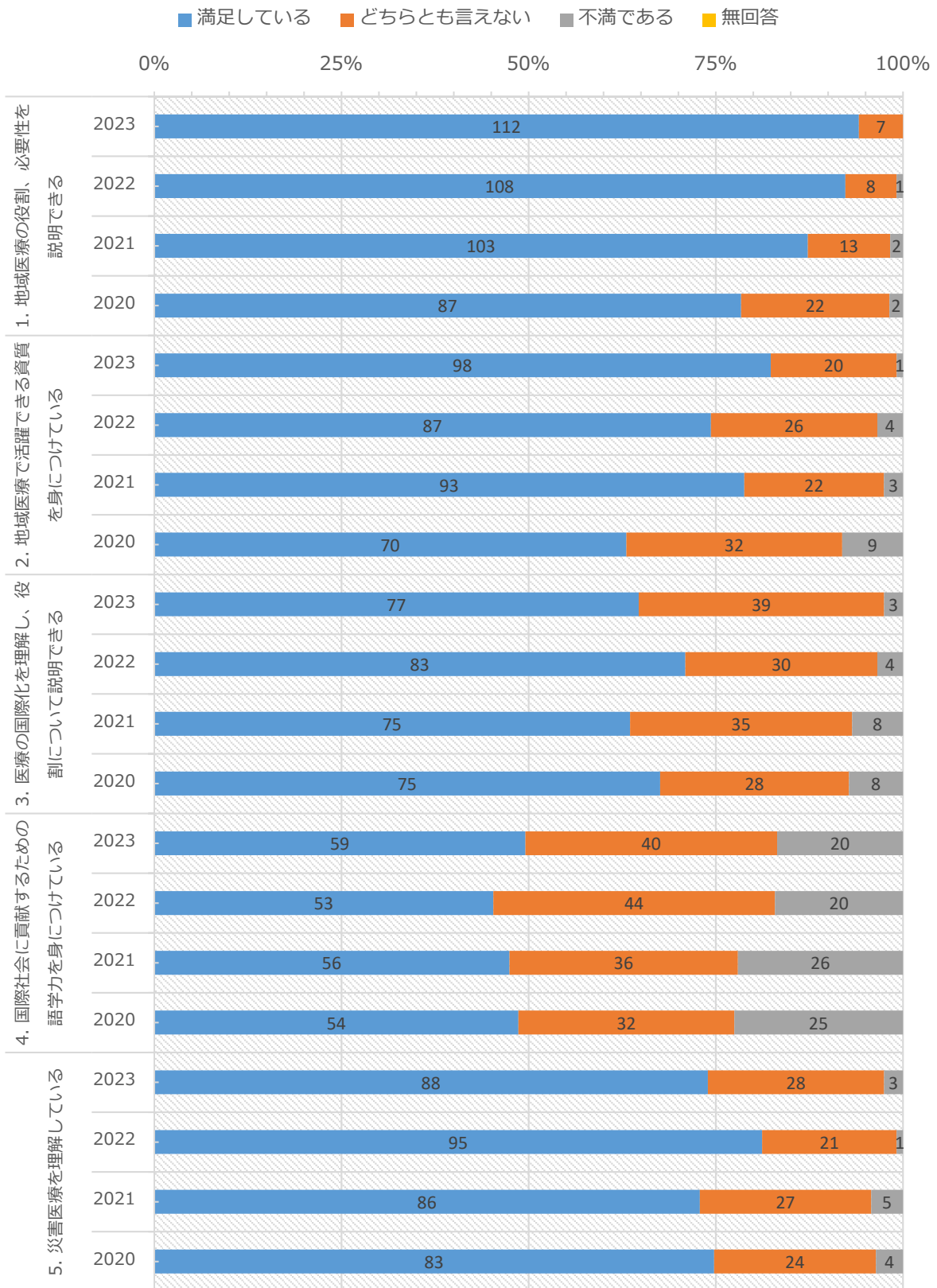


図5-1 社会貢献力（到達度）の4か年比較



回答者数 2023年度：119/ 2022年度：117/ 2021年度：118 / 2020年度：111

図5-2 社会貢献力（満足度）の4か年比較



回答者数 2023年度：119/ 2022年度：117/ 2021年度：118 / 2020年度：111